

# 中高生世代の 生活世界を考える

昨年の神奈川県・川崎市、大阪・寝屋川市ねやがわでの中学生が犠牲となった事件は、中高生の生活、親・家庭の生活と関係がいままで以上に変化してきていると感じさせました。真夜中に中高生が集まり、事件を起こす。中学生が夕方から朝まで街を歩き続ける。ひと晩の寢床を探し、ストリートを漂う高校生。そして、そのような中高生世代の生活・行動に一見、関心をもっていないのではないかと思わされてしまう親たちの姿。「スマホでいつでも連絡がとれるから」という意識や、「もう中高生だから」という子どもへの親のかかわり方も聞こえてきます。

しかし、労働実態が以前よりも流動化・悪化するなか、親たちにも長時間労働、深夜近くの帰宅を余儀なくされる実態が広がってきているのです。このような親の長時間労働や貧困、精神疾患などの深刻化のなかで、居場所をもてない子どもたちが急増していることが問題の背景にはあるように思われます。

あらためて、かれらの生活世界のいまを考えてみるべきではないか。私たちはそう話し合い、今年1月に仁藤夢乃さんを迎えて研究会を開くなど、検討を重ねてきました。今回そのなかで考えたことを提示しました。

そして、中高生世代の家庭以外の居場所をつくる取り組み、学校を支援的な機能をもつものにしよと試みる試み、女子高校生の支援をしている方の思いなどをまとめました。本特集が子どもたちの生活世界のいまをあらためて考えていくきっかけになることを願っています。